

「第4次小諸市食育推進計画」(案)に対するパブリックコメントの実施結果

1.実施概要

(1) 募集期間

令和8年1月26日(月)から令和8年2月26日(木)まで

(2) 計画官の公表方法

- ①小諸市ホームページへの掲載
- ②小諸市役所(健康づくり課窓口)

(3) 意見募集の方法

- ①直接持参
- ②郵送
- ③ファックス
- ④電子メール

2.意見募集の結果

(1) 意見等の提出者

2名

(2) 意見等の件数

6件

(3) 提出の内訳

- ①直接持参 1名
- ②郵送 0名
- ③ファックス 0名
- ④電子メール 1名

(4) 転出された意見等の概要とそれに対する市の考え 別紙のとおり

第4次小諸市食育推進計画に係るパブリックコメントの意見及び市の考え方について

No	意見・提案の内容	回答
1	<p>小諸市が示している食育推進の基本分野 «若い世代への食育» «健康長寿を目指す食育» «食の循環と地域の食を意識した食育» «食を育む環境づくり»は、将来世代を見据えた重要な方向性であると受け止めております。 先日、学校給食に関する意見交換の場に参加し、現在の地産地消型給食が多く農家や関係者の努力によって支えられていることを知りました。そのような真摯な取り組みがあるからこそ今の給食が成り立っているのだと感じると同時に、この体制を将来にわたり続けていくためには、善意や個々の負担に依存しすぎない供給体制の安定化も必要ではないかと考えるようになりました。 学校給食は、若い世代への食育を日常的に実践できる場であり、健康長寿の基盤づくり、地産地消の推進、食品ロス削減といった各基本分野を具体的に結びつける「実装の場」になり得るものだと感じています。 例えば、直売所等を拠点とした共同納品体制の検討や、農家と学校をつなぐ調整機能の整備などを通じて、食育の理念を支える供給構造を安定させる視点も考えられるのではないのでしょうか。 また、小諸市が脱炭素先行地域であることを踏まえ、学校給食を農業・環境・子どもの健康をつなぐ地域循環の一部として位置づけることも、基本分野を一体的に推進する上で意義があるように思います。 既存の基本方針を構造的に結びつけ、持続可能性を高める視点として、学校給食の位置づけについて検討を深めていただければ幸いです。</p>	<p>農業従事者の高齢化や、耕地面積の減少など、地域食材の供給体制については課題が多くあります。これは学校給食のみならず、地域全体の課題として取り組む問題と考えます。学校給食を地域循環の一部として位置づけるだけでなく、すべての世代が地域の環境、食の循環を支える一員として意識を高めていただくよう、取り組んでまいります。</p>
2	<p>生産者と食材納入業者の方々の話を聞き、幼児期なりの食への興味関心を持つことは、とても良いことだと思う。ところが、民間業者が調理業務を行っていることで調理業務との様々な矛盾が生じていないか心配している。市の職員が調理を行っていた頃には、地元の生産者のことをよく知っていることで円滑にやれたと思うが。</p>	<p>民間委託後も、市栄養士が献立の作成を行い、月1回開催している市栄養士と調理員の会議において、子どもたちが給食を食べている様子や反応を共有しております。又、献立や使用する食材、切り方や味付けなどについても話し合い、調理業務に反映しています。そのため、調理員の方々は、小諸市が給食で大事にしていることを守りながら、毎日手作りの給食を提供しております。</p>
3	<p>地元の食材を使い、おいしく安全であたたかい自園給食は小諸のよさだと思う。幼児期の子育てで「食」の問題は大事なテーマで、試食をしながら保育者、保護者、生産者、調理員と一緒に語り合い、食の大切さを共有することが大事であると思う。そのためには、栄養職員、調理職員、生産者のまとめ役など、人材の育成が欠かせない。</p>	<p>日々、園長や園の職員、調理員、市栄養士が連携し、食育や給食について情報交換を行っています。生産者の方々には、子どもたちと給食を通して交流できる機会を設けていきたいと考えております。</p>

第4次小諸市食育推進計画に係るパブリックコメントの意見及び市の考え方について

No	意見・提案の内容	回答
4	<p>文章中の「天然だしの活用」「旬や地産地消を意識した地元食材を取り入れた」「園の畑で取り入れ提供」などの表現は、額面通りに実行されたら素晴らしいと思う。これらのことが、民間事業者との契約でもそうになっていることが大切で、民間の利益追求と矛盾する可能性も出てくることが考えられる。 相当の委託料と人材の保障がなければ実施継続不可能と考える。</p>	<p>文章中の取り組みにつきましては、現在の給食にて実行をしております。引き続き、こどもたちが食に関する興味や関心が持てるよう、関係者と連携し、取り組んでいきたいと考えております。 食育推進計画の取り組みの内容を含む小諸市が大事にしている保育園給食については、仕様書に記載しております。そのうえで、仕様書の内容が実施されているのか確認するため、小諸市立保育園給食調理業務評価委員会を設置し、調理中の視察や給食の試食を行い、業務評価を実施しております。引き続き、民間事業者と密に連絡をとり、安全でおいしい給食を提供していきます。</p>
5	<p>「模範教材となるよう充実させ…」文字通り給食指導が充実し、栄養士の皆さんの努力は大変なものだと思っている。保護者に配布される給食だよりもとてもいいものだと思う。「バランスの取れた食事」を提供するため、調理業務に求められる高度な技量が十分かを心配している。この部分で十分な人材を確保できるよう、行政の努力が今こそ求められているのではないか。</p>	<p>バランスの取れた食事の教材として、各校の栄養教諭・学校栄養職員はこどもたちの栄養やおいしさのために調理員と日々協議を行いながら献立内容の充実や調理方法の工夫を図っております。 人材に関しましては、国の配置規定より余裕を持った人数となっております。小諸市の給食を更に発展させるために、これからも人材確保に努めてまいります。</p>
6	<p>この文章は、その通りだが、現実を直視し、改善に踏み出さなければ現在のシステムは継続できない。地域の生産者の高齢化は多様な品目を作り、収穫し所定の学校に届けることを困難にしている。しかも学校再編に伴って、集荷する食材、野菜の量も大きく変化すると思われる。生産者の困難さや学校再編に伴う困難さを克服して、持続可能な小諸の学校給食＝自校方式で地産地消のシステムを早急に検討、擁立することが必要です。</p>	<p>学校に納めて下さる地域生産者だけでなく、小諸市の農業従事者の高齢化に伴う離農や規模縮小は課題となっております。地産地消を進めるためには新規就農者の確保等、地域一体となって取り組む必要があります。 学校再編に伴う課題も各校栄養教諭・学校栄養職員を中心に地域生産者会と連携して取り組んでまいります。</p>